

ウイルスの病原性

■ キーワード

パラインフルエンザウイルス、メタニューモウイルス、免疫応答、インターフェロン、ワクチン、抗ウイルス薬

■ 概要

パラインフルエンザウイルス、メタニューモウイルスの病原性の解明のため、ウイルスの増殖機構と宿主免疫応答対抗機構について研究している。



名前 後藤 敏 教授

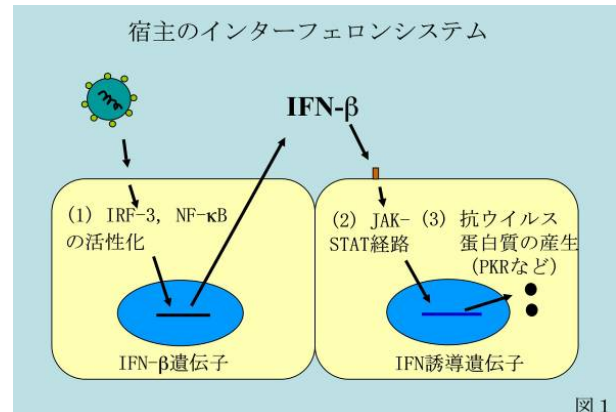
医学部医学科病理学講座
微生物感染症学部門

主な経歴：(医学博士)名古屋大学
所属学会：日本ウイルス学会(評議員)
American Society for Microbiology(member)

■ 内容

呼吸器感染症の原因ウイルスとして重要なパラインフルエンザウイルスとニューモウイルスには、宿主の初期防御機構であるインターフェロンシステムを攪乱する機構が発達している。この抗インターフェロン機構は、ウイルスの病原性発現に深く関わっている。本機構を分子レベルで解明することにより、新しい抗ウイルス薬や弱毒生ワクチンの開発を目指す。具体的には、以下の研究を行っている。

- 1)抗インターフェロン機構に係わるウイルス蛋白質(インターフェロンアンタゴニスト)の同定
インターフェロンアンタゴニストの機能を欠損させたウイルスは、弱毒生ウイルスワクチンの候補となる。
- 2)宿主インターフェロンシステムのどの過程をどのように阻害しているのかを明らかにする。
インターフェロンアンタゴニストを標的とした抗ウイルス薬を開発のための基礎情報が得られる。



分野・業種	バイオ・ライフサイエンス
シーズにかかわり希望する研究課題	ウイルスの抗インターフェロン機構を基盤とした抗ウイルス薬や弱毒生ウイルスワクチン開発
コメント・メッセージ	多くのウイルスで、宿主インターフェロンシステムに対抗能を示すウイルス蛋白質の存在が明らかになってきており、それを標的とした抗ウイルス薬、ワクチン開発が期待される。
特許出願状況	